

市民の皆さんとの取り組みを紹介する

協働と参画の プラットホーム通信

平成21年
8月14日発行

第42号

- P1…… 地域は皆で創るもの！
- P2…… ほのぼの朝喫茶
- P3…… 修学旅行生がやってくる！
地域版NPOの設立
- P4…… 「淡河町ゾーン・バス」始動！
歴史と光のコラボレーションによる協働のまちづくり
- P5…… 近所づきあいが地域内協働に！
神戸市民円卓会議
- P6…… 新長田にアートの拠点を！
茅葺き民家を支える取り組み
- P7…… 神戸このまち熱っつあつ！！
- P8…… パートナーシップ活動助成

特集 地域団体とNPOの協働

東灘区 地域は皆で創るもの！～多文化共生に向けた取り組み～

一本庄ふれあいのまちづくり協議会とこうべ子どもにこここ会

東灘区の深江地域では、七夕まつりや深江多文化子どもまつりなど、日本人の子どもと外国人の子どもと一緒に参加するイベントが開催されています。日本人住民と外国人住民が皆で地域を創っています。

しかし、ここまで来るには長い時間と地道な努力の積み重ねがありました。約10年前、この地域に急激に増加する外国人がゴミの出し方のルールを守ってくれないことに困っていました。言葉の壁に加えて、文化の違いが大きな原因でした。



短冊も多言語



みんなで一緒に七夕の飾りつけ



深江多文化まつりのビンゴ大会



サンバで盛り上がる

同じ地域に住んでいるもの同士、なんとかうまくやっていけないかと考え、地域内のNPOに相談するなどして、ごみ出しルールのチラシや回覧を作成、外国人に配布しました。また、避難場所の案内を多言語（ポルトガル語、英語、中国語、韓国・朝鮮語）で作成したほか、外国人住民に講師をお願いして、料理の講習会を開催しました。講習会は和やかなコミュニケーションの場となり、お互いの文化を知り合うきっかけとなりました。その後、住民同士挨拶を交わすようにもなりました。

Chikaku no hinansho wa	Higashinada shougakkou desu
近くの避難所は	東灘小学校です
LOCAL DE REFUGIO MAIS PROXIMO	E A ESCOLA HIGASHI NADA
YOUR NEAREST EVACUATION SHELTER	HIGASHINADA ELEMENTARY SCHOOL
离这里最近的避难所是	东滩小学校
가까운 피난소는	히가시나다 초등학교 입니다

多言語による避難場所の案内板

神戸市長のひとこと



神戸市長 矢田 立即

一地域における協働の取り組み一

地域団体もNPOもまちの課題を解決して、地域を良くしたいという想いは同じです。それぞれが強みを持ち寄ることで、これまでできなかった課題解決への取り組みも可能になると思います。

全国的に見ても、地域団体とNPOの協働の取り組みは、まだ始まったばかりですが、神戸では、ユニークなノウハウを持ったNPOと外部を受け入れることのできる柔軟な地域団体との協働が進んでいます。これは、震災以降、全国から多くのボランティアが神戸に来ていただき、人々の生活を支援していただいたこと、また、神戸において、地域を支援できるNPOが数多く育っていることが、神戸で地域団体とNPOの協働が進んでいる理由だと思えます。

今号では、それらの協働の取り組みの中から地域ごとの特徴的な実例を紹介しています。また、NPOと地域との協働を進めるために地域団体やNPOなどで構成し、平成19年度から議論を重ねている「神戸市民円卓会議」では、このたび、「地域協働ちえぶくろ」を作成しました。実際の協働事例を掲載し、これから協働を進めようという団体にとって大変参考になると思いますので、市民の皆様も一度ご覧ください。

地域団体とNPOの協働

1面より

約5年前からは、地元の外国人児童生徒支援団体「こうべ子どもにこにこ会」からの協力要請を受け、毎週木曜日と土曜日に実施する日本語教室や母語教室の会場として、地域福祉センターを提供するなどの協力体制をとっています。

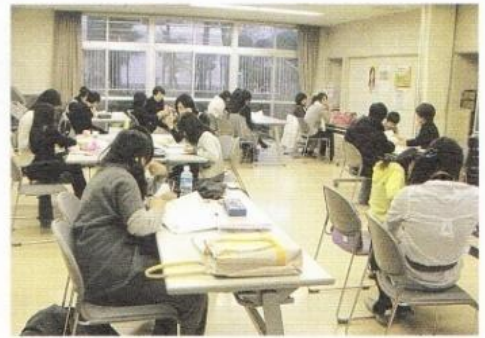
子どもたちの交流をきっかけに大人の交流も深め、まちぐるみで多文化共生の取組みをしています。



こうべ子どもにこにこ会事務局の田中香織さん
「外国の方がこの地域に多く住むようになり、お互いの生活習慣の違いを認め合いながら活動を進めています。地域の方々の支えがあってこそ、私たちの活動も成り立っています。」



本庄ふれあいのまちづくり協議会委員長の佐野末夫さん
「地域やNPOをはじめ、学校、行政などが多文化共生の取組みをしています。それらが協働していくことで、地域を皆で創っていきたいと思います。」



地域福祉センターでの日本語教室



みんなで稲刈り体験をして交流を深めよう

灘区 地域の居場所「ほのぼの朝喫茶」 NPO法人・ボランティア×地域×事業者

灘区にあるグループホームケアウイング六甲の1Fダイニングでは、月2回第2、第4木曜に「ほのぼの朝喫茶」という、地域の方の交流の場を運営しています。きっかけは、NPO法人CS神戸（東灘区）が実施したコミュニティビジネス入門講座修了生が、その学びを地域で実践するにあたり、CS神戸が研修・企画・仲介・導入までサポートしたことに始まります。

場所を提供する、神戸介護ケアウイング代表取締役の足立勝さんは、「サービスやモノを提供する人、場所を提供する人、それぞれできることの持ち寄りにより、人々に喜んでもらえる。これは、循環型経済であり『協働』そのものです。」

一方、「場所を提供してくれるおかげで、ボランティアをして喜んでもらえる人がいる。自治会が入ってくれることで、入所者と地域の交流ができるようになりました。」と。ボランティアグループやかまし村の高橋正信代表。

また、地域の自治会の山下さんは、「朝喫茶で知り合った利用者が夏祭りや地域の行事に出てきてくれて、楽しんでおられる姿を見るのは楽しみ。」

「今後は、地域の方のボランティアも増えて、「ほのぼの朝喫茶」での人の交流が盛んになれば、、、。」と、いう顔は期待に満ちていました。



みんなで食べると会話が弾みます。



利用者の交流の輪が広がる



「それぞれできることの持ち寄りで作りが上がることが協働です。」（足立さん・左）
「自治会の人にボランティアに入ってもらうことで、交流が広がる。」（高橋さん・中央）
「もっとたくさんの人にボランティアに参画して喜びを共有してほしい。」（山下さん・右）